

平成30年度

丹波篠山黒豆情報

第3号

平成30年9月18日 篠山市・JA丹波ささやま・丹波農業改良普及センター

*篠山市内6カ所に調査定点を設置しています。

【生育】(平成30年9月14日篠山市定点調査結果より)

	1株当たり着莢数 (莢)
平成30年	78.5
平年(過去10カ年平均)	97.1
平年比	81%
平成29年(参考)	96.0

- ・8月下旬以降、降水量は台風等の影響により平年よりかなり多く、日照時間は少なくなっています。
- ・1株当たりの着莢数は78.5莢で、平年に比べて81%と少なくなっており、倒伏や分枝の枝折れが多く見られます。
- ・ほ場による着莢数の差が平年に比べて大きく、1株当たりの莢数が最大109.9莢のほ場もあれば、最小50.0莢のほ場もあります。

【病害虫】(平成30年9月14日篠山市定点調査結果より)

	立枯性病害 株率(%)	カメムシ類 虫数/株	ハスモンヨトウ 被害株率(%)	サヤムシガ 被害株率(%)	アブラムシ類 頭/小葉	ハダニ類 頭/小葉
平成30年	17.67	0.03	0.03	0.00	0.02	0.01
平年(過去10カ年平均)	2.71	0.21	0.20	13.84	0.60	1.95
平年比	652%	14.3%	15%	0%	3.3%	0.5%

- ・茎疫病などの立枯性病害の発生は平年よりかなり多く、一部で多発しているほ場が見られます。
- ・カメムシ類、アブラムシ類、ハダニ類などの害虫の発生は、平年に比べて少ない傾向です。
- ・ハスモンヨトウのフェロモントラップによる誘殺数は増加傾向にあります(発生消長のグラフ参照)。

【今後の対策】

1 立枯性病害(茎疫病、黒根腐病)対策

①長雨などの影響により、立枯性病害の発生したほ場が多く見られます。ほ場の排水対策を徹底しましょう。

②立枯性病害が発生した場合は、発病株を早急に抜き取り、抜き取った株は、ほ場外に持ち出して処分しましょう。

2 害虫対策

- ①カメムシ類、マメシクイガ、フタスジヒメハムシなどは、莢肥大期に莢を吸汁・食害して被害が大きくなるため、発生に注意し、薬剤防除を徹底しましょう。
- ②ハスモンヨトウは、9月に入っても捕殺量が多い傾向です。幼虫による食害を受けて白く見える葉（白変葉）は除去し、早めの防除を実施してください。

上記病害虫の防除薬剤については、必ずJA丹波ささやま「丹波篠山黒大豆栽培こよみ」で確認してください。

3 土壌水分管理

- ①実が肥大する10月下旬までは細やかな水管理が重要となります。晴天が続き、土壌が乾いた際は、可能な場合、適宜灌水を行きましょう。
- ②湿害や立枯性病害の発生を防止するため、長雨や台風等により畝間に水が溜まっているほ場では、排水対策に努めましょう。

4 台風対策

- ①今年より多くも多くの台風が発生しています。集中的な大雨の後に水が停滞しないように、排水溝と排水口が繋がっているなどの事前点検を行きましょう。
- ②強風で葉がもまれた場合は、斑点細菌病対策として殺菌剤で防除しましょう。

【ハスモンヨトウの発生消長（フェロモントラップ誘殺数）】

